

重要な事実

Students for Fair Admissions, Inc.対 President and Fellows of Harvard College

背景

ハーバード大学の入学選考方針は、入学者を決定する際に数ある要素のうちの一つとして人種を用いることから、大学の入学選考における多様性に疑問を呈し、人種考慮の廃止を求める反差別撤廃措置活動家の Edward Blum とその団体、Students for Fair Admissions (SFFA) によって、長年にわたり攻撃を受けています。連邦裁判所で二度敗訴した後、SFFA はハーバード大学のケースを審理するよう最高裁に請願し、最高裁は 2022 年 10 月に、同じく SFFA が提訴したノースカロライナ大学に関する関連ケースと合わせて審理する予定です。

要点：

- 40 年以上にわたって、最高裁は、人種が、すべての学生に利益をもたらす多様なキャンパスコミュニティを作るための重要な手段として、大学の入学選考において考慮される多くの要素の一つとなり得るものとし、これ繰り返し確認してきました。

ハーバード大学の入学選考方針は、各出願者の全人的審査の数ある要素の中の一つとして人種を考慮します。最高裁は、他の大学が法律と憲法に則って人種を考慮する方法のモデルとして、ハーバード大学の入学選考プロセスを二度引用しています。ハーバード大学の適格で限定的な人種の使用は、Bakke (1978 年) で確立され、Grutter (2003 年) で認容され、Fisher I (2013 年) および Fisher II (2016 年) で再確認された 40 年以上の最高裁判例と完全に一致するものです。最高裁と下級裁は一貫して、大学はその教育的使命に不可欠な多様なキャンパスコミュニティを形成するために、入学選考の多くの要素の一つとして人種を考慮する能力を保持することができると判断しています。

Bakke において Powell 判事は、「多様な学生の獲得は...明らかに高等教育機関にとって憲法上許容される目標である」と指摘しました。Regents of Univ. of California 対 Bakke, 438 U.S. 265, 311-12 (1978)。「高等教育の質にとって不可欠な『思索、実験、創造』の雰囲気は、多様な学生集団によって促進されると広く信じられています。...国家の未来は、この多民族国家のように多様な学生の考え方や習俗に広く触れることで鍛え上げられたリーダーにかかっていると看做しても過言ではないでしょう。」 Id. at 312-313。

「法の平等の保護条項は、多様な学生集団から生じる教育的利益を得るといふきわめて強い公の利益を促進するために、入学選考の決定において狭い範囲に調整された人種の使用を禁止するものではありません」と述べています。Grutter 対 Bollinger, 539 U.S. 306, 343 (2003)。

「多様性は『市民の目から見た正当性を持つ一連のリーダーを育成し』、『人種間の理解を促進し』、『人種の固定観念を崩す助けとなり』、『学生の中に多様化が進む労働力と社会に対応できる下地をつくり出す』。」 Fisher 対 University of Texas at Austin, 579 U.S. ___ (2016)。

- 2 つの連邦裁判所は、SFFA が提出したあらゆる主張を圧倒的多数で否決し、ハーバード大学に勝訴の判決を下しました。

2019 年 10 月 1 日、30 人の証人による広範な証拠と証言による 3 週間の裁判の後、米国連邦地裁は、ハーバードが差別をしておらず、人種に関する限定的考慮は最高裁判例を遵守したものであると判決を下しました。2020 年 11 月 12 日、第一巡回区控訴裁判所の 2 人の判事は、この判決を支持しました。SFFA は、法的主張を裏付ける証拠を提供することができず、代わりに不正確で誤解を招くような情報と、この裁判で却下された間違った法的主張を押し付けています。SFFA は、まったく同じ主張を繰り返し、それらの主張が裁判で検証されずに却下されたことにしようとしています。

Allison Burroughs 判事の判決文からの引用：

「ハーバード大学への入学が認められ、入学を決めた学生は、さまざまな経験、信念、才能を持つ、あらゆる種類の人々に囲まれて生活し、学ぶこととなります。彼らは、人種を超えて、ユニークな歴史と経験を持つ一人の人間として、お互いを知り、理解する機会を持つことになるのです。ハーバード大学

や他の場所でのこのような取り組みが、いつの日か、人種は事実であるが、決定的な事実ではなく、何が重要かを教えてくれる事実でもないとして理解するところまで、私たちを導いてくれるでしょう。そうなるまでは、厳格な精査に耐える人種配慮型の入学プログラムは社会で重要な位置を占め、大学が学習を促進し、学問を向上させ、相互尊重と理解を促す多様な雰囲気を提供できるようにするのに役立つでしょう」と述べています。

「当裁判所は、ハーバード大学がその入学プロセスが Fisher II (136 S. Ct. at 2208) で最高裁が明示した原則に準拠していることを示す責任を果たしたと判断し、残りの各請求についてハーバード大学を支持する判決を下さなければならないと結論しました。」

- 学生、アジア系アメリカ人擁護団体、企業、公民権団体、大学、経済学者など数十の団体がハーバードを支持し、SFFA の反多様性の主張を拒否しています。

ハーバード大学の学生および卒業生 25 団体は、合わせて 1 つの法廷助言者(amicus curiae) による意見書を提出し、Asian Americans Advancing Justice、Lawyers' Committee for Civil Rights、NAACP Legal Defense & Educational Fund が代表する複数の現役および元学生が、裁判中に多様な学生の重要性について証言しました。その他、Asian American Legal Defense and Education Fund、アメリカ教育協会、名誉毀損防止同盟、著名な経済学者や社会学者、また Apple、GE、Intel、Microsoft、Verizon などの企業も支持しています。SFFA は裁判で、自分たちのために証言する学生を一人も出しませんでした。

Asian Americans Advancing Justice からの引用：

「反アジア人種主義を清算しようとする動きが国全体にある中、私たちは差別が過去の遺物ではなく、この国の有色人種の人生生活体験に毎日浸透し、歪め続けていることを知っています。差別撤廃措置、多様性、差別禁止プログラムは、女性、そしてアジア系アメリカ人を含む有色人種が高等教育や国民生活のあらゆる場面で可能性を開くために不可欠であり、より公正で公平な社会のための基礎的な構成要素となってきました。」

- **アメリカ人は多様性、差別撤廃措置(affirmative action)を広く支持しています。**
多様な社会とグローバル化した世界で成功するためには、人々は異なる背景、人生経験、考え方を持つ個人とともに働く方法を知る必要があるため、多様性はこれまで以上に重要です。最近の調査では、大多数のアメリカ人がこの心情に同意していることが示されています。Gallup の 2021 年の調査では、アメリカの成人の 62% が差別撤廃措置を支持しており、71% のアメリカ人が多様な学生集団を作る努力は「良いことだ」と答えた 2017 年の Pew の調査結果が補強されています。

Amgen Inc.、Apple Inc.、Applied Materials Inc.、General Electric Company、Gilead Sciences, Inc.、Glaxosmithkline LLC、Intel Corp.、Micron Technology Inc.、Microsoft Corporation、Twitter Inc.、Verizon Services Corp.、VIIV Healthcare Company などハーバードケースにおける企業の法廷助言者による意見書からの引用：

「大学は『学生の中に多様化する労働力と社会に対応できる下地をつくる場所です。』そのような環境で教育を受けた人々は、（企業が）必要とするインクルーシブな環境に貢献する準備ができています。他人の考えに耳を傾け、合意を形成し、広い視野で考える準備ができています。また、異なる見方を統合することができるため、より偏見のない創造的な方法で問題解決に取り組むことができます。このような認知的な利点は、厳格な批判的思考と創造的な問題解決能力が不可欠なビジネスの世界にそのまま生かされます。そして、多様な高等教育環境は、認知能力だけでなく、リーダーシップなど、（ビジネスの）成功に不可欠な社会認知能力も育むのです。」

- 多様な教育経験は、すべての学生が多様化する職場や世界で成功する下地をつくるためにきわめて重要なものです。

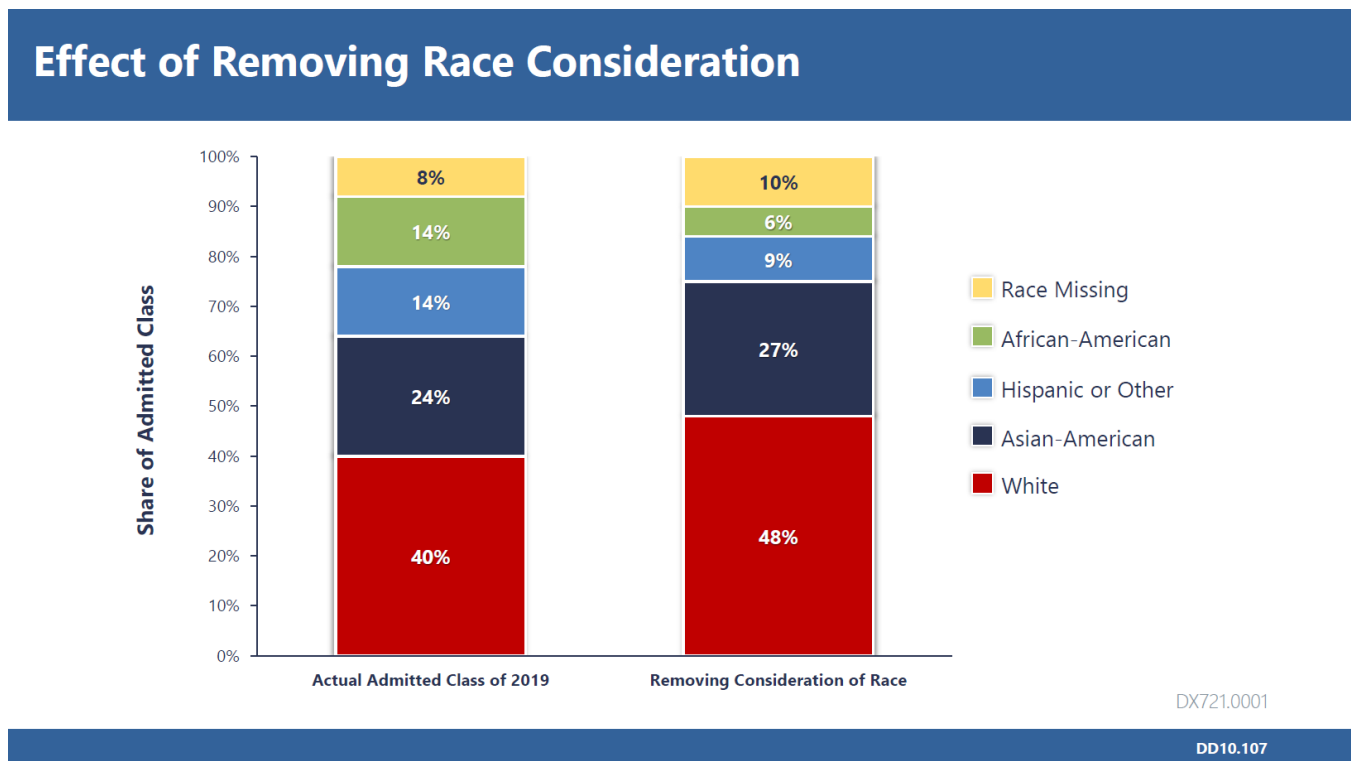
最高裁は、人種を含む複数の次元で多様なクラスが、あらゆる背景を持つ学生の教育経験を変革し、卒業生の中にますます多元化する世界に対応できる下地をつくることを一貫して認めてきました。違いを超えて学ぶことは、その違いを乗り越え、解決するために不可欠です。大学には、すべての学生が職場や世界で成功できる下地をつくる多様な学習共同体を構築する自由と柔軟性が必要なのです。

プレイリー・ビュー A&M 大学学長、Ruth Simmons からの引用：

「学生は受動的に学ぶだけでは不十分で、自分の思い込みや考え方に疑問をぶつけられる経験が必要です。教室に多様性があれば、そのような機会が得られ、それが、より強く、より効果的なヒューマンプロジェクトの参加者の輩出へとつながるのです。」

主な統計：

- 入学生に占めるアジア系アメリカ人の割合は、**2010 年**以来 **27%**増と大幅に増加しています。**2026 年度**入学生に占めるアジア系アメリカ人の割合はほぼ **28%**に達しています。
- ハーバード大学は、毎年 6 万通以上の願書を受理し、約 2,000 名の新生に入学許可を与えています。
- 2019 年度入学生のモデリングによると、ハーバード大学が人種を考慮しなくなった場合、アフリカ系アメリカ人の割合は **14%**から **9%**に、ラテン系アメリカ人の割合は **14%**から **9%**に低下するとのことです。アジア系アメリカ人の割合は **24%**から **27%**にわずかに増加します。



重要な日付：

2022 年 5 月 2 日	Students for Fair Admissions の冒頭簡潔趣旨書
2022 年 5 月 9 日	SFFA を支持する法廷助言者による意見書
2022 年 7 月 25 日	ハーバード大学およびノースカロライナ大学の再答弁趣旨書
2022 年 8 月 01 日	ハーバード大学およびノースカロライナ大学を支持する法廷助言者による意見書

v042522

2022年8月24日	SFFA の回答
------------	----------

その他のリソース：

[ハーバード大学入学選考訴訟のウェブサイト](#)

[ハーバード大学入学選考プロセスの概要](#)

[主任法廷弁護士、William F. Lee '72 の最新インタビュー](#)